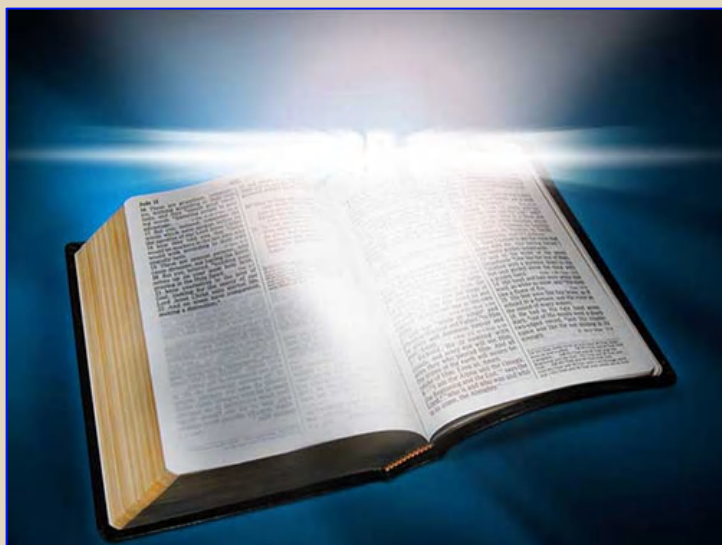


カトリック教会のカテキズムによる 聖書とその解釈



教会は「すべてのキリスト信者.....に、しばしば聖書をひもといて、『イエス・キリストの崇高なる知識』（フィリピ 3・8）を学ぶよう、特別にまた強く勧めます。『実際、聖書を知らないことは、キリストを知らないことです』」

(133)

聖書の靈感と真理

105 神が、聖書の作者です。「聖書に含まれ、かつ、示されている神の啓示は、聖霊の靈感によって書かれたものです」。

「尊き母なる教会は、旧約および新約の全部の書をそのすべての部分を含めて、使徒的信仰に基づき、聖なるもの、正典であるとしています。なぜならそれらの書は、聖霊の靈感によって書かれ、神を作者とし、またそのようなものとして、教会に伝えられているからです」。(第2コンスタンチノーブル公会議)

106 神は、人間である聖書記者に靈感を授けました。「神は、聖書の著作にあたって、固有の能力と素質を持った人間を選んで、これをお使いになりました。それは神が彼らの内に、また彼らによって働く間に、彼らが、神が望むことをすべて、そしてそれだけを、真の作者として書くためです」。

107 靈感によって書かれた書は、真理を教えます。「それゆえ、靈感を受けた作者、つまり、聖書作者が断言していることは、聖霊から断言されたこととすべきであり、したがって、聖書は、神がわたしたちの救いのために書かれることを望んだ真理を堅く、忠実に、誤りなく教えるものであるといわなければなりません」。

108 とはいえ、キリスト教信仰は「書物の宗教」ではありません。キリスト教は神の「ことば」の宗教であって、そのことばは、「記されているだけの無言のことばではなく、受肉して生きているみことばです」。聖書が死んだ文字となることのないように、生ける神の永遠のことばであるキリストが、「聖書を悟らせるために」聖霊によってわたしたちの「心の目を開いて」くださることが不可欠です。

聖書の解釈者である聖霊

109 聖書の中では、神は人間的な表現で人間に話されます。したがって、聖書を正しく解釈するには、人間の著者たちが実際に主張しようと意図したことと、神が著者たちのことばを通してわたしたちに示そうとされたこととに留意しなければなりません。

110 聖書記者たちの意図を発見するために、当時の状況と文化、当時使われていた「文学類型」、当時普通であった感じ方、話し方、

物語り方を考慮する必要があります。「実際、種々の方式での歴史的な、あるいは預言的な、あるいは詩的な書において、またその他の表現形式において、真理は違った方法で語られ、かつ表現されています。

111 しかし、聖書は靈感によって記されたものですから、これを正しく解釈するには、前述のものに劣らず重要な、もう一つの解釈原理があります。それなしには、聖書は「死んだ文字」にとどまるでしょう。「聖書は、それが書かれたのと同じ霊の光のもとに読まれ、解釈されなければなりません」。第2バチカン公会議は、聖書を、靈感を与えた聖霊に忠実に解釈するため、三つの基準を示しています。

112 ①「聖書全体の内容と一体性」に特別な注意を払うこと。なぜなら、聖書は異なる書から成り立っていても、神の計画の一貫性のゆえに一つだからです。その計画の中心とも心ともいふべきもの、それはイエス・キリストであり、イエスの死と復活以来、それが明らかにされたのです。

「キリストの心とはキリストの心を知らせる聖書を指しています。この心は受難の前には閉じられていました。すなわち、聖書の意味は、明らかでなかったのです。しかし、聖書は受難後に開かれました。なぜなら、キリストの受難後、聖書の知識を持っている人々は預言をどのように解釈すべきかを考察し、識別できるからです」。(パウロ6世『神の民のクレド』)

113 ②「教会全体の生きた伝承」に従って聖書を読むこと。教父たちの教えによると、聖書は、文字どおりに読むよりも、教会の心で読むほうがまさっています。事実、教会はその伝承に神のこゝばを生き生きと保ち続けており、さらに、「霊が教会に与える霊的意味に従って」聖書を霊的に解釈する力を聖霊が教会に与えるのです。

114 ③ 信仰の類比に留意すること。「信仰の類比」とは、信仰の諸真理が、それら相互において、啓示の教え全体においても一貫している、という意味です。

聖書の意味

115 古くからの一つの伝統に従えば、聖書のことばの意味は、文字どおりの意味と霊的意味との二つに区別することができます。後者は寓意的、道徳的、天上的意味とに細分されます。これら四つの意味は根本的には一致し、教会の中にあって聖書を読むとき、読書を豊かにするものです。

116 文字どおりの意味。

これは聖書のことばが表している意味で、正しい解釈の規則に従う聖書解釈によって考案されます。「聖書のすべての意味は、文字どおりの意味を土台にしています」。

117 霊的意味。

神の計画の一貫性のおかげで、聖書の文だけではなく、また、文が語ることがらや出来事もまた、別のことを示すしるしであります。

- ① **寓意的意味。** わたしたちは、聖書に示されているさまざまな出来事がキリストに関連づけて何を意味しているかを認めることによって、これらの出来事の意味をより深く理解できます。たとえば、紅海の通過はキリストの勝利を意味し、またそのことから、洗礼を意味します。
- ② **道徳的意味。** 聖書に記されている出来事は、わたしたちを正しい行動に導くはずで、それらは「わたしたちに警告するため」(一コリ10・11)に書かれました。
- ③ **天上的意味。** ことがらや出来事の永遠の意味を考えることもできます。それらの出来事は、わたしたちを天の「祖国」に導くもの(ギリシア語でアナゴゲ)です。たとえば、地上の教会は天上のエルサレムのしるしです。